



今月のテーマ 『基本的教育と識字率向上月間』

第1446回例会

2016年9月15日 Vol.31/No.10

■本日の例会 / 第1447回 平成28年9月29日(木)

- 会長・幹事報告
- 各委員会報告……………各委員長

終了後 親月会 (ソリッドグリーン 宮崎市船塚2-7)

【出席率状況報告】

- ・会員数 ……………54名
- ・出席者 ……………31名
- ・欠席者 ……………23名
- ・出席率 ……………58.49%
- ・9/1の修正出席率…88.89%

■会長挨拶

会長 香川美穂子



こんにちは！今日は9月15日元々は「敬老の日」の祝日でした。ところがある時から「3連休を作ろう」と言う代議士達の魂胆からか、日にちがその年によって変わるという訳のわからない事となりました。「成人の日」もそうですね。元は1月15日だったのですが今年は1月11日でした。

私が宮崎に住み始めて驚いた事として、先週車のアイドリングの事を申しましたがもう一つは神宮での「朔参り」です。毎月1日に神宮に行かれるとわかりますが、朝早くから家族連れだけでなく企業の方々も制服や背広姿で整列してお参りをしておられます。このような光景は見た事がなかったので本当に驚き「さすが神の国宮崎」と思いましたが、その割にはお正月国旗を掲げているところやしめ飾りをしておられるお宅が東京よりも少なくこれも不思議でした。昔から1日と15日には自分の住んでいる地域の神社にお参りに行くのが習慣だったようで、だから神社のお祭りは15日に行われる事が多いですね。本来の旧暦では1日が新月15日が満月であり「新月と満月は太陽、月、地球が一直線に並んでいる」という状態だそうです。科学的にも月の満ち欠けは月の引力による潮の満ち引きだけでなく人間にも影響を与えるとされ、満月の日は出生率が高くなると言われていますし自殺や殺人が増えるというデータもあるそうです。

そういう宇宙の仕組みから「お朔参り」「15日まいり」という概念が出来たのでしょうか「1日と15日には小豆を食べる」という習わしもお参りに伴っての習わしなのでしょう。この「定期的に1日と15日に氏神様にお参りし、小豆を食べる」という習慣は歳を取った者にとっては身体の

リハビリと植物性たんぱく質摂取というなかなか理に叶った習慣だな〜と私は思いました。神社は大体広かったり階段があったりしますから良い運動ですし、昔お砂糖は高価なものだったのでしょから毎月2回おおっぴらに植物性たんぱく質と一緒に砂糖を食べる事ができるのはとても大きな楽しみであるとともに身体にとっても大事な事だったのではないのでしょうか。

今は太陽暦ですから毎月1日が新月15日が満月とはなりません、なんと今日は旧暦の8月15日、ピッタリ満月なのです。今夜はお天気がちよっと不安定ですが夜空を見上げてみてください。神社への参拝は現在では昔の考え方の名残が生活のリセットという意味も含め残っていると思いますが、このような習慣と言え生活の有り様を見るにつけても、太陽暦で過ごしていた昔は自然に沿って自然と共に生活していたと思います。

ここ数日朝夕の気温が下がりひんやりとした風に秋を感じますね。先週のお食事には秋刀魚が出され食材からも秋を感じました。日本には四季がありそれぞれの趣を五感それぞれから感じる事が出来るのは素晴らしいと思います。だからこそ細やかな感性が育ち微妙な違いを大事にする文化が育っているのだと思います。和食は食材・味付け・器によって、いただく我々は目から口から満足を得ます。塩・胡椒を自分で食べる時にふりかけて味付けをする大らかとか大雑把なオーストラリアや、食材の鮮度を曖昧にするためにソースの研究が進んだというフランス料理とは全然違います。日本は水が豊かな四季を持つ自然に恵まれた国です。生物にとって「水」は生きるために何よりも大切なもの。水が無ければ生きられません。その水も時として人間に牙を剥きます。大洪水や津波ですがそれらも人間が自分の勝手に自然の元々の形に手を入れ本来の姿を変えてしまった

からと思われま。自然」とは「そのまま・あるがまま」ということです。大自然を自分に添わせようとするのではなく、自分が添うと言う姿勢をとって行くべきでしょう。先週申し上げましたが自然界が今大きく変化しています。自然の生態系を元に戻すよう小さい事からでもできる事は私はやっていきたいと思っています。以前お話ししましたが害獣として処分されている鹿やイノシシ達。これも嘗てあった彼らの生活の場が無くなったから人間の側に降りてきてしまった訳で、彼らの生活の場であった山を変えたのは人間です。九州山稜隣の県熊本の上球磨森林組合の人に私は「杉は3大美林の秋田・吉野・京都の北山に任せて、他は雑木林や広葉樹林にしたら」と話しました。そうすれば森の生物達は人間の世界へ降りなくとも山の中で生活出来るのですから。「それぞれの世界、場を守る」のが相手に対する思いやりであり礼儀だと思います。今年のRIのテーマ「人類にサービスするロータリー」はもっと大きく目を開いて、「地球にサービスをするロータリー」で有って欲しいと思います。

■幹事報告

副会長 田中 寿



①宮日美展の案内が来ております。10/1から16まで県立美術館で開催されます、入場券が10枚ありますのでご利用ください。

②今年度の地区大会のドレスコードのご案内です。クールビズでの対応をお願い致します。尚、大懇親会に際しては、アロハシャツまたは法被の着用をお願いします。懇親会において、カンパチ音頭を全員で踊りたいと考えていますので、参加される方は、ユーチューブにUPしてありますので事前に練習しておいて下さい。

■前年度出席100%表彰

無欠席	会員名	無欠席	会員名	無欠席	会員名
30年	秦 喜八郎	22年	鳥山 浩	6年	香川美穂子
28年	黒木 雄一	〃	池田 豊繁	3年	江口 健一
26年	日高 海雄	20年	新田 敬介	1年	藤原 昭公
25年	押川統一郎	17年	平松 寛	〃	田中 寿
24年	三輪 修珍	11年	田島 直也	〃	山川 力
〃	長岡 紀行	8年	井上真由美		
〃	片木 重光	7年	湯浅 敏幸		(計) 19名



ゲスト卓話 宮崎県立看護大学 大館真晴 教授



日本人の識字率は世界に誇るべきもので、「国連人間開発報告書」(2013年)によると、日本は97%以上の人々が読み書きできるというグループに分類されていた。

この数値は、日本の経済上の豊かさによるというよりも、古代から続く、文字による教育や、和歌などの文字文化を大切にすることによる心というところの方が大きいように思われる。

例えば、養老4年(720)に元正天皇が出した詔には以下のようにある。「人間には様々な行いがあるが、親に孝をつくし敬うことは全てに優先する」。また、天平宝字元年(757)に孝謙天皇が出した詔には「昔から民を治め国を安泰にするには、必ず孝をもって治めた。あらゆる行動の根本は孝であって、これに優先するものはない」との記述がある。

当時の朝廷はこれらの詔にのっとり、孝の心もった人材を育てようとした。そして、和歌などの文字文化を利用した人材育成を行ったのである。以下の万葉歌は、その象徴的な例である。「父母が頭かき撫で辛くあれていひし言葉ぜ忘れかねつる(私が故郷を旅立つ際に、父母が頭を撫でながら言ってくれた、無事でいなさいねという言葉が忘れられないのです)」。

この歌には、故郷を旅立つ若者の切ない気持ちや、両親に対する深い愛情が溢れている。進学や就職などで一度、故郷を離れた経験のある方は、我がことを思い出し、胸を熱くしているのではないだろうか。

この孝にまつわる事例などから考え見ると、現代の日本人にとって、重要なのは、文字が読めること(識字率)よりも、文字から何を学ぶかが大事だといえるのではないだろうか。

先程の万葉歌になぞらえるならば、若者が文字や文学を学ぶことで、親を思い、祖先を思い、郷土を思う心を持ってほしいと願うものである。

発行/宮崎中央ロータリークラブ

●事務局 〒880-0804 宮崎市宮田町10-25 宮田町ビル TEL.0985-22-6767 FAX.0985-22-0288  
●例会場 〒880-8545 宮崎市山崎町浜山 シーガイアコンベンションセンター TEL.0985-21-1155(毎週木曜 12:30~13:30)  
会長/香川美穂子 副会長/三輪修珍・田中 寿 幹事/江藤敏治